

## 地球環境部会(第 125 回)における主なご意見について

※影響評価に関するご意見のみを抜粋

	御意見	御意見への考え方
1	普通の人々へ、この内容をよりわかりやすく伝達する作業が必要。一般の消費者の方々は、適応については、ほとんどご存じない。そういう意味では、これだけの専門家を投入して、研究し、報告を出し、これから(適応計画の)閣議決定に向かうということを、もっと情報発信すべき。	今後、日本における気候変動の影響評価の結果等について、情報発信に努めてまいります。
2	適応の分野において、研究者、あるいは研究体制がどういう位置づけになるのかというのを記述する必要がある。日本の今の体制が十分なのかどうか。特に文科省とか環境省、どのような具体的連携をとって、効率的、効果的な調査体制にあるのかどうか。	意見具申中の課題にも挙げているとおり、既存の研究や調査が不足している部分については、知見の集積に努めてまいります。
3	評価できない、科学的な知見が欠如している、研究例が少ないということがあるわけだが、知見がないけれども、これは重要なのだという、そういう評価があっているのではないか。	知見が十分でなくても重要な分野に関して、確信度は「低い」が重大性が「特に大きい」と評価されている分野もある。「評価できない」となっている分野については、今後の知見の集積に努めてまいります。
4	国民の目から見ると、いろんな分野で重大性、その強度が明示されているわけだが、分野を超えて、本当に何が最も重要なのかというようなことが、必要になってくるのではないか。影響が分野に分かれているが、横断的な効果、重層的な効果といったものもあるのではないか。そういったことにも、ぜひ焦点を当てて欲しい。	今回は、分野別に重大性を判断しています。今後、横断的な観点で影響を把握する必要があるれば、検討を行ってまいります。
5	産業・経済分野であれば、ほかに実務家あるいはそちらの方面の先生方もいる。今後、これから何年かローリングされていくときは、ぜひその方々の知見も検討されてはいかがか。	産業・経済分野については、今後、知見の集積に努めてまいります。

	御意見	御意見への考え方
6	温暖化すれば、いろいろ被害が出るが、ポジティブな面もある。今回の委員会は、趣旨として、ネガティブな面に集中していると思うが、ポジティブ面にも配慮してもいいのではないか。例えば民生用エネルギーの暖房・冷房で言うと、暖かくなると暖房用エネルギーは減る、冷房は増えるということで、仙台辺りを境にして、エネルギーは減るところのほうが多いというような評価もある。	本意見具申においては、ネガティブな面だけではなく、ポジティブな面も含めて評価を行っています。今後、新たな知見が出てくれば、それも含めて広く評価をしてまいります。
7	(報告書を)アップデートしていくということは、ぜひやっていただきたい。	意見具申、報告書の課題にもあるとおり、定期的に気候変動による影響の評価を行ってまいります。
8	環境省で、2008年6月に出した「気候変動への賢い適応」に比べて、それほど各事象のアップデートが進んでいないのではないかと。2008年のレポートに出ていなくて、今回のレポートに出ているというものが非常に少ないという印象を受けた。課題にあるモニタリングが、非常に弱くなっているのだろうと感じた。モニタリングは論文が書きにくい分野なので、環境省や文科省も、バックアップしていかないと、こういう研究は成り立たなくなる。(意見具申において) 課題が後ろのほうにあるが、もっと目立つところに移動させたほうが良いと思う。	意見具申においては、一昨年から昨年、まとめられたIPCC第5次評価報告書など2008年以降発表された最新の科学的な知見を含んでいます。また、意見具申の構成上、課題は後ろにまとめているが、継続的な観測・監視は非常に重要であり、今後もしっかりと取り組んでまいります。